

2011年 10月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所より～



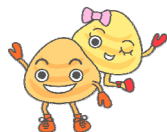
Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

☆CONTENTS☆

■最近のトピックス

- 衣浦港中央ふ頭西地区の岸壁改良工事について
- 「渡し場かもめ会」が、国土交通大臣表彰を受賞されました
- 三河湾水質調査 ○民主党議員一行 三河港視察
- 平成23年度の三河港における浚渫工事 ○安全パトロールが行われました
- 西尾市教育委員会主催・ワクワク体験塾が開催されました
- 「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の中部地方整備局長表彰



■編集後記

☆最近のトピックス☆

○衣浦港中央ふ頭西地区の岸壁改良工事について

衣浦港中央ふ頭の半田緑地公園から南を見ると、海に張出した岸壁が見えます。この岸壁は、昭和54年に完成し、半田市及びその周辺における海上物流の拠点として使用されてきました。

しかし、完成後約30年が経過し、施設の老朽化に伴う機能の低下が判明したため、平成22年度より安全性の確保・施設延命化を目的とした改良を実施しています。

今年度は、全延長240mのうち約110m分の岸壁の改良工事を実施しております。

工事の主な内容は、老朽化した岸壁上部を撤去し、同じ場所に新たな岸壁上部を構築するものです。

主な特徴として、鉄筋コンクリート部分にエポキシ樹脂で覆われた鉄筋を使っているため、コンクリートを浸透してきた海水で鉄筋が錆びにくい構造となっています。

1日でも早い供用を目指して安全第一に工事を進めていきます。



改良中の岸壁の写真

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市1号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

○「渡し場かもめ会」が、国土交通大臣表彰を受賞されました

8月25日、市民ボランティア団体「渡し場かもめ会」が、高浜市役所市長室で、これまでの功績をたたえ国土交通大臣表彰を受けられました。当所は7月20日に表彰式を行う予定でしたが、台風の接近により延期され、この日国土交通大臣に代わり、当事務所長から代表の中川庄嗣会長へ表彰状が授与されました。

「渡し場かもめ会」は、2000年に結成され、毎月第1日曜日に海岸約1.5キロを清掃し、周囲に花を植えるなどの環境美化活動に力を注いでいるほか、かつての文化を後世に残そうと「渡し場まつり」を開き、嫁入り船の再現や、毎年地元の小学生を対象に近くの干潟での生物調査や衣浦湾の水質調査などを行っています。

今年の渡し場まつりは10月23日に予定されているので、是非皆さんも足を運んではいかがでしょうか。



高浜市長と受賞された方との記念写真

○三河湾水質調査

8月22日～23日の2日間、愛知県水産試験場において人間環境大学及び、名城大学の学生の海洋環境学講座の実地研修が行なわれ、当事務所は22日の現場研修を担当させていただきました。

これは、学生が現場での体験学習により、環境に対する意識の向上と、海洋環境の実態や保全・改善に係る基礎的知識を習得させるために開講しています。

当日は波もなく非常に穏やかに現場研修日和でした（たくさんのスナメリも見ることができました）。



熱心に記録をとる様子

当事務所の港湾業務艇「しおさい」に乗船し、三河湾の湾奥部、湾口部で水質（溶存酸素量）、底質（目視観察）、生物（プランクトン採取）の調査を行いました。

調査により三河湾奥部の海底付近では海水中に溶けている酸素が少ないこと、三河湾奥部の海底の泥はイオウ臭がすることを体験できました。

また、水産試験場の会議室で、港湾の役割、中部地方整備局の海域環境改善への取り組みを紹介させていただきました。

短期間の実地研修でしたが、三河湾の環境、環境改善への取り組みについて理解を深めていただきました。

○民主党議員一行 三河港視察

8月29日、民主党愛知県連災害対策プロジェクトチームの県議や市議らが三河港を視察しました。視察の目的は東北大地震の発生を踏まえて防災体制の見直しを行い、今後しっかりとした体制を取っていくための調査でした。

開催セレモニーの中で佐原豊橋市長は、三河港の重要性を述べられるとともに「7号岸壁の第4バースという形で耐震強化をして頂いて、地震があっても、もろともしない岸壁を作って頂きたい。」と災害に強い港作りへの要望を述べられました。その後視察者の方々は愛知県の港湾業務艇「みかわ」で三河港の海上視察を行いました。

海上視察を終えた後、三河港務所内で行われた意見交換会では、浅井愛知県議が「港の大切さや意味、震災時の物資の受け入れ拠点など勉強になった。三河港だけでなく、愛知県の港に関心を持って勉強をさせて頂き、発言もしていきたいと思いました。」と今回の視察をまとめられました。



三河港コンテナターミナルでの視察の様子

○平成23年度の三河港における浚渫工事

今年度三河港では、右図に示す泊地（船舶が安全に航路から出入りし停泊することができる水域）において水深-10mのところを-12mまで掘り下げる浚渫工事を実施しています。泊地の水深を深くすることにより、より大きな船舶の入港が可能となります。

浚渫は下の写真にある※「グラブ浚渫船」という建設機械で行います。先端には土砂を掘るバケットが設置されており、今年度の工事では、バケット容量20m³（ダンプ4台分）の大型浚渫船等を使用し施工します。

今年度の浚渫数量は約9万m³で、ダンプ約1万8千台分になります。浚渫した土砂は2千m³の土砂が入る「土砂運搬船」で田原地区にある造成中の企業用地の護岸前まで運び※2バージアンローダ船で土運船の船倉に注水し土砂と攪拌混合し、これを揚土ポンプにて吸い上げ造成中の企業用地へ揚土し、埋立材料として利用されます。

※1 グラブ浚渫船：海底の土砂を掘るために使用する船。

※2 バージアンローダ船：浚渫船が掘り上げた土砂を土捨場へ捨てるために使用する船。



三河港の上空からの写真



グラブ浚渫船



バージアンローダ船



揚土状況

○安全パトロールが行われました

9月14日、三河港航路泊地（水深-12m）浚渫工事現場で、安全パトロールが実施されました。本来は7月1日～7日の全国安全週間に合わせて行う予定でしたが、三河港では対象となる案件が無かったため今期の実施となりました。今回は現場で使われているグラブ浚渫船やバージアンローダ船をパトロールし、安全掲示板や救命器具、ガス設備など安全に関わる箇所をチェックしました。パトロール後、請負業者の方へ職員が気になった点を伝え改善を求めました。今後もこの取り組みを継続して、事故のない工事を目指していきます。



掲示板の点検の様子

○西尾市教育委員会主催・ワクワク体験塾が開催されました

8月27日、西尾市教育委員会の主催で親子ふれあい活動「親子で海上探検～海からふるさとをながめよう！～」が開催されました。今回は、東幡豆海岸で自然観察と東幡豆港内見学を実施しました。

これは西尾市の海域環境において、季節感を味わいながら海の生き物や植物を観察し、また、海からふるさとを眺めることにより、環境における意識を高めるとともにふるさとをより親しむ心を育むことを目的とし、行われたものです。



とびだしてくるマテガイに歓声！

当事務所から、三河湾の海域環境改善について講師として干潟の観察会、また港湾業務艇「しおさい」を派遣して港内見学のお手伝いをしました。東幡豆海岸での干潟観察会では、さまざまな干潟の生き物に興味をもち、特にマテガイの採取では、貝が潜んでいそうな穴に塩を振りかけ、貝が飛び出してくると子どもたちから大きな歓声があがっていました。

また、港内見学では、海上から見た幡豆町の自然、みなとの様子等を見学してもらいました。

自然観察、港内見学ともに子供達にとって貴重な夏の体験となったと思います。



船内で説明を聞く様子

○「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の中部地方整備局長表彰

9月6日、田原市立泉小学校が「海をきれいにするための一般協力者の奉仕活動表彰」の中部地方整備局長表彰を同校にて授受されました。

今回の表彰の目的は、近年において地球規模での海洋環境保全が課題となっている中で沿岸域の住民、船舶利用客、海を愛する方々による海をきれいにするための奉仕活動を顕彰し、国民に、より一層海への親しみを深めてもらうところにあります。



受賞の様子



泉小学校 校長室で児童の皆さんと記念撮影

田原市立泉小学校は、平成7年から全校児童、教職員、保護者の方々が毎年参加し、江比間海岸の清掃を実施すると共に海を大切にすることを啓発し環境保全に対する理解を深められており、昨年度の当事務所長表彰に続き、今回中部地方整備局長表彰の受賞となりました。

今回の表彰式は全校集会の場で行われ、表彰後には児童会役員の方より地元のきれいな海を守るために引き続き活動を続けていきたいという言葉を受けました。

☆編集後記☆

和歌山県や奈良県をはじめとした地域において、台風12号で年間降雨総雨量をこえる大雨が降り、未曾有の大災害となりました。犠牲者に深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、「海は広いな大きいな～」で始まる童謡ですが、幼稚園児である私の娘がこの夏に時々口づさんでいたフレーズです。この夏、家族で伊良湖の海岸「恋路が浜」を歩いていたとき、娘が遠くに浮かんで見える貨物船をみて、「あの船はなにを運んでいるの?」「どこから来たのかな?」と聞かれたので、「毎朝食べているパンの材料や洋服などを遠い海の向こうから運んでくるんだよ」と答えました。

海はいろいろな恵みを私たちに与える場であったり、教育の場であり、国民生活にとって大切な場ではありますが、やはり安心して安全が確保されていることがその前提であることは言うまでもありません。

国土交通省中部地方整備局では、豪雨災害や東海・東南海・南海地震も予想される中で、災害に強く災害発生時には緊急物資等の輸送機能を確保するための耐震強化岸壁等の整備に努めるとともに、よりいっそう円滑な災害対策支援を目指した、管内の地方自治体(市町村)とのリエゾン派遣協定締結などの取り組みを今後もよりいっそう進めていきたいと考えています。

※リエゾン(liaison)：中部地方整備局又は中部地方整備局各事務所から市町村の災害対策本部等に現地情報連絡員として派遣される人。

語源はフランス語で「組織間の連携、連絡」という意味

「災害時の情報共有による迅速かつ的確な初動体制の実施」「国土交通省の行う支援の適切な実施」に資することを目的として、災害情報などを収集し中部地方整備局災害対策本部へ報告すること、及び中部地方整備局管理施設の被災情報などを提供することを役割とします。



三河港湾事務所ホームページはこちら <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>